

アゼルバイジャンを知るための67章



67章

を知るための

バクー生まれのリヒアルト・ゾルゲ

——独立と支配に必要な諜報機関の英雄

2008年9月22日、アゼルバイジャンの首都バクーを、20人ほどの日本人が訪れた。8月に隣国ジョージア(ゲルジア)とロシアの軍事衝突があったばかりであったが、日本人一行はアゼルバイジャン共和国外務省の手厚い歓迎を受けた。

民間の日露歴史研究センター主催、アゼルバイジャン外務省後援の第5回ゾルゲ事件国際シンポジウムの報告者・出席者たちで、日本のほ



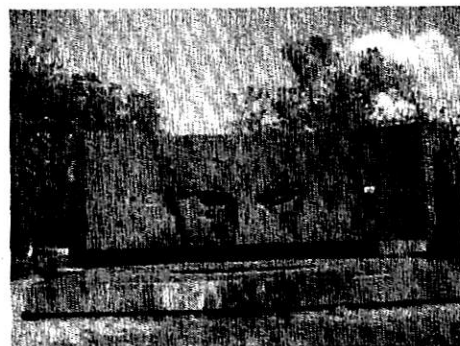
リヒアルト・ゾルゲ

加藤 哲郎

かロシアと中国からも代表が出席した。

会場は、アゼルバイジャン共和国初代大統領の名をとった4年制エリート養成大学、ハイダル・アリエフ名称アゼルバイジャン共和国国家保安省アカデミー講堂だった。その教員30人、学生200人も会議に参加し、篠田正浩監督の映画「スパイ・ゾルゲ」が上映された。

アゼルバイジャンで、なぜゾルゲ事件なのか。戦前日本で活躍した旧ソ連赤軍諜報員、「20世紀最高のスパイ」と称されるリヒアルト・ゾルゲは、1895年10月4日にバクー市郊外のドイツ人村サブンチュで生まれた。ドイツ人の父親は、バクーに進出したノーベル兄弟系石油開発会社の技師、母親はロシア人だった。ゾルゲは3歳でドイツに引き揚げるまで、アゼルバイジャンで育った。たった3年とはいえ、バクー生まれのゾルゲは、アゼルバイジャンゆかりの



ゾルゲ公園

数少ない世界的著名人である。

実際バクー市の中心にリヒアルト・ゾルゲ記念公園があり、高さ3メートル、横5メートルの記念碑が建っている。サブンチュには生家が保存され、ゾルゲ名称小中学校に博物館も設けられている。

もつともこの記念碑は、旧ソ連時代に作られた。ゾルゲをソ連の大祖国防衛戦争勝利の英雄

として讃えるものだ。1964年に、それまでゾルゲの存在そのものを否定していたソ連が、冷戦下の諜報活動強化のため、第二次世界大戦の英雄に仕立て上げた。

1941年の日米開戦前夜、ゾルゲは、近衛内閣囑託・元朝日新聞記者尾崎秀実から日本軍が南方に向かい対ソ戦争は避けられるという御前会議情報を得て、モスクワに送った。それは、ソ連の対独戦への戦力集中を可能にして国を救う最高機密情報だった。今日でもブーチンのロシアは、ゾルゲを救国英雄と評価している。

アゼルバイジャンは、ソ連の崩壊・解体で1991年に独立した。初代大統領ヘイダル・アリーエフは、もともと旧ソ連国家保安委員会(KGB)幹部で、アゼルバイジャンKGB議長から共産党第一書記になった。独立した共和国では最高会議議長・大統領の独裁者となる。ロシアのKGB出身ブーチン大統領と似た経歴で、

バクーの空港の名もヘイダル・アリーエフ国際空港である。

おまけにヘイダル引退後に大統領を継いだのは、長男のイルハム・アリーエフで、2018年現在も、新アゼルバイジャン党による事実上の一党独裁である。

バクーのゾルゲ記念塔・国際シンポジウム開催の裏事情は、ここにある。時にロシアと対立することがあっても、旧KGBを引き継いだ国家保安省が、アゼルバイジャンの独立とアリーエフ家による独裁の後盾である。それゆえに、世界によく知られたスパイ・ゾルゲが顕彰され、学ばれるのだ。

日本には、バクー生まれのゾルゲに着目した推理小説、作家西木正明『夢顔さんによるしく』(文春文庫)がある。

ゾルゲや尾崎秀実が社会主義ソ連のために活動した時代の日本の首相は、近衛文麿公爵だっ

た。近衛自身は敗戦でA級戦犯容疑者にされ自殺した。

しかし近衛家長男文隆は、満州で敗戦を迎えソ連の捕虜となった。米国留学や父の秘書時代をソ連の諜報機関に敵しく尋問され戦犯とされた。シベリア抑留の悲劇で、劇団四季ミュージカル『異国の丘』の主人公のモデルである。

抑留者の大半が帰国した1950年以降も、近衛文隆はイワノヴォ戦犯収容所に残された。56年日ソ国交回復で戦犯も恩赦で帰国できることになったが、それが決まった10月に、文隆は体調を崩し急死する。アメリカCIAは、ソ連による毒殺と疑った。

近衛文隆は、1952年から日本との文通を許された。遺品として残された43通の家族宛手紙の内8通に、「夢顔さんによるしく」という奇妙な名前が出てくる。どうやらソ連に影響力ある「夢顔」なる人物に頼んで自分の釈放を早

めてほしいということのようだが、受けとった妻正子ら家族も、親しい友人たちも、心当たりがない。

この「ユメガオ」を、歴史家工藤美代子は天皇の弟・高松宮と推理した（工藤『近衛家七つの謎』PHP研究所）。本項筆者は、結婚時の媒酌人だがA級戦犯になった木戸幸一のことではと推論した（加藤『731部隊と戦後日本』花伝社）。だが西木正明は、これを「ムガン」と読む。アゼルバイジャンのバクーはムガン高原に近

いから、首相秘書時代にゾルゲ・尾崎と面識があり、敗戦直後からソ連で長期抑留中の近衛文隆は、ゾルゲの死刑を知らずにゾルゲの影響力による早期帰国を夢見た、という謎解きである。史実としては確定しようがないが、日本とアゼルバイジャンを、ゾルゲと近衛家プリンス文隆を介して結びつけたところに、西木の小説の面白さがある。アゼルバイジャン旅行のバックにしのばせたら、きっと役立つだろう。

III

政 治

【編者紹介】

廣瀬 陽子 (ひろせ ようこ)

慶應義塾大学総合政策学部・教授。
東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学、政策メディア博士(慶應義塾大学)。2000～01年に国連大学秋野フェローとしてアゼルバイジャンで在外研究。専門は国際政治、旧ソ連地域研究。

【主要著作】

〈単著〉

『旧ソ連地域と紛争 石油・民族・テロをめぐる地政学』(慶應義塾大学出版会、2005年)、『強権と不安の超大国・ロシア 旧ソ連諸国から見た「光と影」』(光文社新書、2008年)、『コーカサス 国際関係の十字路』(集英社新書、2008年【第21回アジア・太平洋賞特別賞】)、『ロシア 苦悩する大国 多極化する世界』(アスキー新書、2008年)、『未承認国家と覇権なき世界』(NHKブックス、2014年)、『アゼルバイジャン 文明が交錯する「火の国」』(群像社・ユーラシア文庫、2016年)、『ロシアと中国 反米の戦略』(ちくま新書、2018年)。

〈共編著〉

(北川誠一・廣瀬陽子・前田弘毅・吉村貴之)『コーカサスを知るための60章』(明石書店、2006年)。

エリア・スタディーズ 165

アゼルバイジャンを知るための67章

2018年8月5日 初版 第1刷発行

編著者 廣瀬 陽子

発行者 大江 道雅

発行所 株式会社 明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5

電話 03 (5818) 1171

FAX 03 (5818) 1174

振替 00100-7-24505

http://www.akashi.co.jp/

組版/装丁 明石書店デザイン室

印刷/製本 モリモト印刷株式会社

(定価はカバーに表示してあります)

ISBN978-4-7503-4672-4

【JCOPY】(社)出版者著作権管理機構 委託出版物

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

【執筆者紹介】()は担当章・コラム、50音順、*は編著者

今西 貴夫 (いまにし たかお) [34、35、66、コラム12]

外務省大臣官房国内広報室 課長補佐(前在アゼルバイジャン日本国大使館一等書記官)。

奥山 真司 (おくやま まさし) [2]

国際地政学研究所 所長研究員。

【主要著作】

『地政学—アメリカの世界戦略地図』(五月書房、2004年)、『大国の悲劇』(訳書、ジョン・J・ミアシャイマー著、五月書房新社、2017年)、『南シナ海—中国海洋覇権の野望』(訳書、ロバート・カプラン著、講談社、2016年)。

片桐 俊浩 (かたぎり としひろ) [36、37、59、61、コラム6]

旧ソ連非核化協力技術事務局 事業部員(元在アゼルバイジャン日本国大使館 専門調査員)。

【主要著作】

『ロシアの旧秘密都市』(東洋書店、2010年)、『ロシアの歴史を知るための50章』(明石書店、2016年)、共著 Тосихиро Катагири、Такаси Хирано、Ясуеи Томосиги、《Экспортный потенциал продвижения азербайджанской нефти в Украину и Беларусь: взгляды трех стран по поиску «украинского маршрута》》、《Философия экономики: история и современность》、Национальная Академия наук Азербайджана Институт философии、2017。

加藤 哲郎 (かとう てつろう) [コラム1]

一橋大学 名誉教授。

【主要著作】

『日本の社会主義—原爆反対・原発推進の論理』(岩波書店、2013年)、『ゾルゲ事件—覆された神話』(平凡社新書、2014年)、『「飽食した悪魔」の戦後—731部隊・二本秀雄「政界ジープ」』(花伝社、2017年)。

金井 昭雄 (かない あきお) [67]

株式会社富士メガネ 代表取締役会長、社長兼任。FUJI VISION AID MISSION 代表。

鎌田 由美子 (かまだ ゆみこ) [51]

慶應義塾大学経済学部 准教授。

【主要著作】

『絨毯が結ぶ世界—京都祇園祭インド絨毯への道』(名古屋大学出版会、2016年)、『The “Attribution and Circulation of Flowering Tree and Medallion Design Deccan Embroideries” in *Sultans of the South: Arts of India's Deccan Courts, 1323-1687*, edited by N. Haidar and M. Sardar, New York, 2011.』

北川 誠一 (きたがわ せいいち) [7、8、9、10、24、47]

東北大学 名誉教授。

【主要著作】

『イスラームとモンゴル』(『岩波講座世界史—イスラーム世界の発展 7-16世紀』第10巻、1999年)。